

7番

福島県

“食べる”以外の米の
活用方法を求めて
～プラスチックや
燃料資源としての
米の可能性～

J A会津よつば

坂内 孝礼

ばんない

たかあき

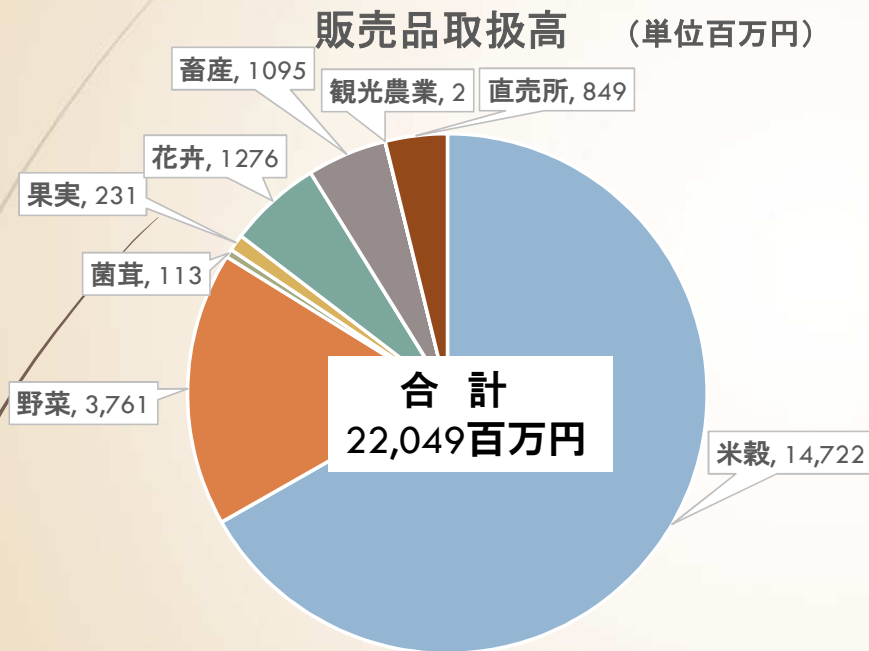
“食べる” 以外の 米の活用方法を求めて

～プラスチックや燃料資源としての
米の可能性～



JA会津よつば
総務部 人事教育課
坂内 孝礼

現状と課題



販売事業の中核は「米」 → **米価の下落**

◎約120万俵（72,000 t）／年間の米を集荷・販売

→日本有数の米の産地として高い評価

しかし……

①日本各地で栽培されるブランド米

②米価の低迷（供給過剰など）

③新型コロナの感染拡大による外食産業の低迷

食べるだけの米の市場は限界？

米が売れない・・・ならば

園芸作物へ転作

メリット

高単価の品目栽培による収益増加
産地として基盤強化

デメリット

施設等の初期投資
軌道に乗るまでの期間

高齢化が進む中
新しいことに取組む
ことは困難

水田を生かした対策はできないか？

「米」を作りながら
今までとは違う『米』を作る

玄米の成分表

成分	割合 (%)
炭水化物 (主にデンプン)	74
水分	15
タンパク質	7
脂質	3
その他	1
(各種ビタミン 無機質など)	

米
↑
稲

- 稲穂(米)
- 稲わら

例1：米を利用したプラスチック素材



例2：稲わらを利用したバイオ燃料



実現に向けての課題

JA単体では
無理!

全農等の機関と
連携

共同研究

コストが**未知数**

等級、食味を
考えなくとも良い

現行の栽培より
省コスト化

地域の**理解**

全部を切り替える
必要はない

安定した収益の証明

稲作の新しい形

【お米】 と 【田んぼ】 は 【日本の原風景】



未来にこの景色を残すために、様々な可能性を考えていきたい。

